

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立富士中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事・学級活動等では、現在も生徒中心の活動となるように工夫している。今後も、どのクラスにおいても全生徒に役割を与え、その働きに対して承認することを通して、生徒の自己肯定感を高める工夫をする。 ・生徒指導については、細やかな対応ができた。今後も職員間の報告・連絡・相談を密にしなが、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・富士校ならではの分離型一貫校の型をつくり、学校運営協議会の助言を得ながら地域と連携した学校作りを目指す。
2 学校教育目標	地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成 ①一人ひとりに基礎学力を身に付けさせ、思考力・判断力を高める。 ②「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自他の命を大切に、郷土を愛する心豊かな生徒を育てる。 ③心身ともに健やかでたくましい生徒を育てる。地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
3 本年度の重点目標	①「五感教育」の推進一わが校の授業づくりと家庭学習への取り組み ②「生徒理解」「不登校対策」の推進一生徒を中心に据えた心の絆&居場所づくり ③連携「小中連携・家庭連携・地域連携」の推進一コミュニティ・スクールとしての絆づくり ④教職員の資質向上と働き方改革を受けての取組の充実

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けたわかりやすい授業の実践	○学校評価アンケートにおいて、授業が「分かりやすい」の生徒回答率が90%以上。 ○保護者や生徒アンケートにおいて、授業中に生徒が主体的に学習に取り組んでいるとした回答が70%以上	・授業づくりのステップ1・2・3を活用した授業改善を目指す。 ・「基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・学習状況調査等の分析に基づく弱点の解消を推進。 ・授業作りにおけるサポートチームの協力等、実践的で臨時的な体制づくりと、一人一回の校内における授業公開。 ・朝の会時に、「1分間スピーチ」を実施し、他の生徒の前で意見を述べる機会をつくる。	A	・学校の授業が「よく理解できる」「おもしろい」に対して、肯定的な回答をした生徒は、どの学年も70%を超えている。 ・めあてやまとめの提示は概ねできている。より効果的な取り組みにするため、めあてをどのように設定し、まとめにつなげていかなど職員間で意思の統一を図っていた。 ・チームでのサポートのもと、一人1授業の公開は実施できている。色んな先生方の意見をもらうことで、授業づくりにおいて、多様な視点を持つことができていた。	A	・子どもたちが「わかった」「できた」を通して、学ぶ楽しさを身に付ける授業をこれからも実践してほしい。 ・文化発表会での生徒の発表は、素晴らしいと思った。これからも、このような力を伸ばしてほしい。 ・保護者アンケートから、生徒の授業への関わり方が良くなったとの結果が出ている。	研究主任 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校が「安心・楽しい」の生徒回答率が90%以上 ○ボランティア活動等の生徒会活動の活性化による参加率の前年度アップ	・OJを活用した受容的な学級集団作り ・職員全員で取り組む道徳授業の推進 ・パワーアッププラン等を活用した主体的な生徒会活動の促進	A	・「学校生活は安心して楽しく過ごしている」と回答した生徒は95%だった。 ・パワーアッププランやボランティア活動に全校生徒で取り組んだ。特に奉仕活動や古瀬映画祭のボランティア活動、花の番組などで、生徒会が主体となり行った。 ・道徳授業は、全学年で担任・副担任が協力して実践し、保護者の90%以上が心の教育に積極的に取り組んでいると回答された。	A	・「学校が安心・楽しい」ことが一番だと思う。 ・地域でのボランティア活動は、地域へ貢献していると思う。 ・地域でのボランティア活動は、大変助かっています。また、人との関わりの中で学ぶことができる良い機会だと思う。	教育相談担当 道徳主任 生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、サポート相談員の状況に応じた活用と連携した相談体制の充実	・定期の生活アンケートを通じて的確な状況把握と即時対応 ・定期的な連絡会での情報共有と組織的な取組の推進	A	・生活アンケートや生徒指導朝会での人権講話を実施し、学校評価アンケートにおいて全職員が「生徒の人権意識の向上に努めた」と回答することができた。 ・担任、教育相談担当、SC、SSW、サポート相談員と密に情報共有を行い、チームで対応できた。特に外部の機関と連携をとり、生徒が登校しやすい環境づくりができた。	A	・中学生は親や先生に、なかなか話をしないのが気になります。ただ、昨年度より先生に相談するという割合が高まっており、先生方が日頃から取り組まれている成果だと思う。	生徒指導主事
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて、いると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校行事や学級活動などで、生徒に役割を与え、できたことを承認することで自己肯定感を高める。 ・学校行事などを中心に、生徒主体の活動を促進する。	A	・全学年で学習状況調査において、3年生すべてが先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っていると回答した。また75%の生徒が自分には良いことがあると回答していた。「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は49%であった。 ・学校行事・学級活動では、全生徒に役割があり、生徒主体の活動ができた。また生徒にできたことを承認することで自己肯定感が高まった。 ・生活アンケートにおいて、80%の生徒が担任やその他の先生に話したり、相談することができると思われている。	A	・生徒の良いところを見つけて、これからも褒めて育ててほしい。 ・これからも、生徒から相談を受けるような生徒との信頼関係を築いてほしいと思う。	教育相談 生徒指導 道徳教育
	○◎郷土を誇りに思う生徒の育成	○◎「富士町が好き」「富士町を自慢できる」の生徒回答率100%	・地域の教育資源、人材を積極的に活用した体験活動を通して「五感教育」の推進 ・ゲストティーチャー招聘によりふるさと富士を大事にする生徒の育成	A	・地域学習では各学年でテーマを設定し、富士町の伝統文化等について、現地での調べ学習を行った。富士町の魅力を発信する動画を制作した。 ・地域からゲストティーチャーを招聘し、富士町の魅力を考えた活動を行った。全生徒が富士町を自慢するようになったと回答した。 ・保護者、生徒ともに、学校として地域の教育資源や人材を活用した体験活動を行っていると感じており、生徒はこれらの活動に対して89%の生徒が楽しく、充実していると感じている。	A	・自然豊かな富士町の富士町でしかできない体験や取組を今後も続けてほしい。 ・文化発表会で、その成果を発表されていたが、どの発表も素晴らしいと感じた。子どもたちにとって、よい地域学習となっているのを感じた。 ・履修づくり・配布では、学校・地域が一体となった活動ができてよかったと思う。	総合的な学習
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」「望ましい生活習慣の形成」「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○全員部活動(含社会体育・文化部)に所属し、放課後等の活動の適切な促進 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒100%	・「早寝、早起き、朝ごはん運動」を家庭・地域と共に推進し、高い朝食喫食率を維持 ・週2回の部活動休みの設定と健康維持管理能力の向上の促進 ・保健だより、給食だよりの定期発行による意識の啓発推進	A	・保健だよりや掲示物で、睡眠、食事、運動等での啓発など、継続して健康の意識向上に努めることができた。 ・生徒の84%が、規則正しい生活を送ることを心がけている。 ・週2回の部活動休みを遵守し、生徒の健康維持管理を心がけることができた。	B	・家庭での「早寝・早起き」の習慣をしっかりとつけなければならない。 ・食事を大切にすると、身体をきたえることが、高齢者になったときに役立つと思う。 ・中学生の頃の体づくりは、大事だと思う。	保健体育科 保健・食育・給食
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○時間を意識した仕事の効率化	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○学校評価職員アンケートにおいて、「サーバー内のデータを分かりやすく整理保存した」と回答する職員の割合85%以上	・定時退勤日(毎週水曜日)実施の徹底 ・長期休業期間中の定時退勤の実施 ・行事、指導の各手引きの次年度を見通した活用の徹底 ・次年度の業務改善を理型に入れた、データや作成した資料等の整理保存の徹底 ・分かりやすく整理保存し、各業務にかかる時間の短縮	A	・毎週水曜日の定時退勤日として設定し、定時退勤という意識は定着してきている。 ・長期休業中は、原則定時退勤として勤務終了後の16:30過ぎには校舎施設をほぼ実施することができた。 ・行事の手引きを活用し、改良しながら次年度への更新を行っている。	A	・先生方の時間外勤務が増えないようにしていただきたい。 ・現在取り組まれていることは継続してほしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○特別支援学級在籍生徒に関する関わり方や対応力の向上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、特別支援教育委員会での情報共有	B	・職員アンケートで「サーバー内のデータを分かりやすく整理保存した」と回答する職員の割合100%だった。 ・業務改善の視点を取り入れながら業務を進めている職員が90%を超えており、業務効率化の観点から今後は誰もがわかりやすいデータの整理保存を進めていきたい。 ・特別支援教育に関する研修会や、個別に支援が必要な生徒の情報を職員間で共有することができ、生徒に対応することができた。 ・今後は、情報交換に留まらずに全職員の共通理解のもとで、どのようにより一歩前進を目指していきたい。	B	・小規模校にしかできない、生徒一人ひとりの個に応じた指導をこれからも続けてほしい。	特別支援CO
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	学校関係者評価	主な担当者	
○小中連携	○9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の研究推進	○小・中・高の全教職員による相互授業参観及び授業研究会(年2回)	・小学部教員との協働による乗り入れ授業、交流活動、授業参観の計画的な実施 ・小・中合同協議会の内容の充実、効果的な合同研修会の計画実施	A	・小学部との交流授業、乗り入れ授業は大体計画通りに実施できた。交流授業については、肯定的な意見を持つ生徒が多い。 ・小・中合同協議会については、ほぼ効果的な取り組みができていた。	A	・小学部での授業は、小学部の児童が中学部の生徒を見るよい機会だと思う。 ・小中連携は、年を重ねるごとに充実していると思います。	教務主任 小中一貫教育
○コミュニティスクール	○学校運営協議会の充実	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100% ○学校HPを活用するようになったという保護者の割合90%以上	・学校便り、HP、学校情報メールの活用及び学校運営協議会を核とした連携の強化 ・保護者、地域への積極的な情報発信・受信の推進	A	・学校情報メール加入率は100%である。定期的、継続的なメール配信、学校HPの更新を行い、保護者からの認知率97%の評価を得た。 ・学校運営協議会では情報交換がで、学校行事へもご参加いただいた。また、委員の方に地域学習の講師としてご指導いただき連携もできた。	A	・HPは定期的に更新を、今後ともお願いしたい。 ・来年度も学校と地域が連携しながら、富士町の子どもたちがよりよく育つようにしていきたい。	教頭
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	・授業では少人数の特徴を活かして、個に応じた指導を行っている。今後は個に応じたきめ細かな指導を継続しつつも、生徒の主体的な学びを促す授業づくりを通しての学力向上を図る。また、家庭との連携を図りながら、生徒自身にどのように家庭学習に取り組んでいくかを考えさせ実行させる必要がある。 ・学校行事・学級活動等では、生徒中心の活動となるように工夫している。今後も、全生徒に役割を与え、その働きに対して承認することを通して、生徒の自己肯定感を高めるようにしていきたい。 ・生徒指導については、細やかな対応ができた。今後も職員間の報告・連絡・相談を密にしなが、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・富士町の教育資源や地域人材を活用しながら、郷土を誇りに思う生徒の育成を図ってきた。この取り組みを、今後も続けるとともに内容を充実させていきたい。 ・富士校ならではの分離型一貫校の型をつくり、学校運営協議会の助言を得ながら地域と連携した学校作りを目指したい。							
5 総合評価・次年度への展望								